

V. 特記事項

1. 学生たちによる“まちなぎわい創出”への取り組み

足利大学及び法人を同じくする足利短期大学、そして足利市による大学・地域連携事業「学生と地域による足利市中心市街地にぎわい創出計画」の一環として、毎年、年に数回、夜のまちを竹あかりで演出し、にぎわいを創出するイベントを実施している。すべての作業は学生たちの主導で実施されており、地域に群生する竹を刈取り、地域の子どもたちと協働して製作した竹あかりを展示している。この活動を通して、足利市という地域社会を舞台とした実践的なまちづくり教育が行われている。

令和元(2019)年11月23、24日には、足利市雪輪町内に200灯の竹あかりが設置され、“まちなか竹あかり回遊路”が計画された。回遊路の起点は足利大学建築学コースの学生たちが改修した100年を超える古建築で、その内部では足利短期大学演劇同好会による演劇が披露された。

2. 足利大学独自の“環境”への取り組み

足利大学ではSDGs達成に向けた種々の取り組みを行っているが、ここでは環境に関する取り組み例を紹介する。

a. 工学部における自然環境への取り組み

i) 風力、水力、バイオマスエネルギーを利用した環境問題解決への取り組み

地球環境問題は、人類が解決しなければならない命題であり、その最大要因である化石燃料からの脱却が必須である。足利大学の機械分野では自然エネルギーの研究に強く関わっており、再生可能エネルギー研究の拠点校にも指定されている。

ii) 落雷予測システム開発への取り組み

北関東、特に栃木県と群馬県は雷発生率が高いことで知られているが、電気電子分野の大気電気研究室では、落雷の早期予知により雷被害を低減することを目的とした「落雷予測システムの開発・実用化」に関する研究に取り組んでいる。研究では、「雷雲センサー」による落雷予測・雷発生条件の解明を目指しており、実用化されれば、学校での屋外課外活動中の雷被害や太陽光、風力発電設備の雷被害の低減が期待できる。

b. 看護学部における社会環境への取り組み

看護学部では、足利市民の健康長寿を目指した生活習慣病予防の一環として、足利市と共同で「足利長寿研究」に取り組んでいる。具体的には、健康な85歳以上の市民に協力頂き、生活自立度のチェックや問診、血液検査などを行った。その結果、認知機能の低さと血中のアルカリ性リン酸酵素の値の高さの相関関係が見いだされた。

今後は、体を動かす運動やアミノ酸と健康長寿の関係を探る研究を行う。